

名古屋港管理組合にヒアリ対策を申し入れ

日本共産党名古屋市議団は5日、愛知県議団、弥富市議団とともに、名古屋港管理組合にたいしてヒアリ対策についての緊急申し入れを行いました。本村伸子衆議院議員も同席しました。

特定外来生物

名古屋港では6月27日、鍋田ふ頭コンテナターミナルで7匹のヒアリが発見されました。ヒアリは、特定外来生物に指定され、刺されると非常に激しい痛みを覚え、かゆみや発疹が現れます。重度の場合は呼吸困難や意識障害などを引き起こし、処置が遅れば命の危険も伴います。

環境省主導の対策が必要

名古屋港管理組合はヒアリ発見後、発見場所周辺の緊急調査を行い、殺虫餌や捕獲するためのワナを設置するなどの対応を進めています。しかし、名古屋港管理組合は一部事務組合のため、県や市のように保健行政を担っていません。同組合側からは「特定外来生物



であるヒアリ対策は環境省が主導してほしい」「市町にヒアリ問題の窓口を設けてほしい」などの要望がありました。

ヒアリ

分類群：ハチ目スズメバチ上科アリ科

形態：体長2.5mm～6mm、体色は赤褐色、腹部が暗色、日本には同属の在来種トフシアリが生息する

生息環境：草地など比較的開けた環境。亜熱帯～暖温帯

食性：雑食性。節足動物、トカゲなどの小型脊椎動物、甘露、樹液、花蜜、種子など。採餌活動はふつう単独で行う。

名古屋港管理組合
管理者 大村秀章様

2017年7月5日
日本共産党愛知県議団 団長 わしの 恵子
日本共産党名古屋市議団 団長 田口 一登
日本共産党弥富市議団 団長 三宮 十五郎

ヒアリに関する申し入れ

6月8日に尼崎、同13日に神戸港でヒアリが見つかったことに続いて、同27日、名古屋港鍋田ふ頭コンテナターミナルで、7匹のヒアリが発見されました。その後、大阪南港でもヒアリが発見されています。名古屋港管理組合はヒアリ発見後、発見場所周辺の緊急調査を行い、捕獲するための仕掛けを設置するなど、迅速な対応をされたことに心から敬意を表します。

ヒアリは、特定外来生物として指定され、刺された際には熱感を伴う非常に激しい痛みを覚え、かゆみや発疹が現れます。重度になると呼吸困難や意識障害などのアナフィラキシーショックが現れ、処置が遅れば命の危険も伴います。

2009年には名古屋港で特定外来生物のセアカゴケグモが見つかり定着、生息地域も広がり、今では駆除や注意喚起に追われています。今後、ヒアリが名古屋港に侵入・定着した場合、セアカゴケグモ侵入時以上に、住民や港湾労働者らへの不安と危険が広がりがねません。国では関係省庁が連携し、対

策に当たることとなりましたが、過度に怖がらなくても済むように、必要な情報を広く知らせたいとしています。

よって、緊急に下記のことを申し入れます。

記

1. ヒアリの侵入を水際で防ぐために、コンテナターミナルはじめ関係箇所において、継続的に調査を行うとともに必要な駆除等の対策を行うこと
2. 港湾労働者や来港者に向けて、ヒアリの見分け方や発見時の対応、刺された際の対処法など、正確で必要な情報を周知すること
3. 調査・駆除にあたる職員及び現場で作業する港湾労働者の安全確保に努めること
4. 国・県・関係自治体・各港湾等と必要な情報を共有し、総合的な対策をたてるとともに、国が防除を行うとした特定外来生物について定めた外来生物法に基づき、国に必要な対策を強く求めること
(以上)